



評価機関による評価

令和2年1月20日





事業所名 白百合愛児園

 3つ：高い水準にある、2つ：一定の水準にある、1つ：改善すべき点がある

評価領域Ⅰ 子ども本人の尊重



評価分類	評価の理由（コメント）
<p>I-1 保育方針の共通理解と全体的な計画等の作成 </p>	<ul style="list-style-type: none"> 法人理念は、「利用者が個人の尊厳を維持しつつ、心身ともに健やかに育成されるように支援する」で、運営方針は、理念の実現のために乳幼児期に大切である人との信頼関係、子ども自らが主体的に物事に取り組める環境を整えるなどを盛り込んで作っています。園独自の保育目標は「健康な体と心を作る」を掲げています。それらはすべて子ども本人を尊重したものとなっています。 事務所と職員更衣室に理念・方針・保育目標を掲示し、職員は日々確認できるようにしています。毎年、理念・方針に関する法人研修を実施し、意識を高めています。新人研修では読み合わせをしています。 全体的な計画は、保育所保育指針の改定を踏まえながら、子どもの発達や生活の連続性を十分に考慮し、子どもの健全な育ちを中心に作成しています。 全体的な計画をコンパクトにまとめたものを入園のしおりに掲載し、園長が5月の父母の会総会で分かりやすく、具体的に説明を行うようにしています。全体的な計画に基づいた1年間の子どもの育ちや保育の進め方については、各クラスの担任が説明をしています。 全体的な計画に基づいた年間指導計画を作成しています。月間指導計画・週間指導計画に関しては、子どもの主体的な活動を促すための環境作りやそのときの子どもの言葉、職員の言葉かけ等大切な部分を拾い上げ、作成をしています。それらを視覚的に追っていくことができるよう、ウェブ化した様式（マップ型記録→子ども全体の動きを俯瞰して、子どもの遊びや経験の意味を読み取り、次の援助を検討していく）にしています。ウェブ化した指導計画は子どもが興味関心を示した遊びの活動（ままごと、ケーキ屋さんなど）ごとの計画になっています。また、ポートフォリオ（写真やその写真に添えられた文言などによって子どもの遊び・活動やそこでの学びを記録したもの・子どもたちの活動記録）を日誌としています。 4、5歳児クラスは、日々サークルタイムと称する時間を設け、子ども自身が遊びや活動の振り返りをしています。 子どもが言葉で表現できない意思を、職員が汲みとって言葉にしています。子どもの遊びこんでいる様子や表情など子どもの姿を観察し、子どもの行動には意味のあることを職員は理解し、ゆっくり向き合い受け止めることを大切にしています。 職員は、子どもたちの自由な発想や意見を聞きながら日々の保育を進めています。子どもが遊びの中でどんなことに興味を持っているのか、どんな遊びを深めようとしているかなど、職員間で情報共有を図りながら新しいウェブ化した指導計画を作成し、子どもが意欲的に活動できるようにしています。
<p>I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施 </p>	<ul style="list-style-type: none"> 家庭状況調査票、健康調査票などの提出書類、入園前面接での情報のほか、入園直後の子どもの様子、送迎時の親子の雰囲気などを観察し、園生活を無理なく始められるようにしています。年度始めの職員会議等で新入園児の様子や情報を共有しています。 慣れ保育、私物の持ち込み、主担当保育者など新入園児の受け入れ時の配慮をしています。0～2歳児クラスは、個別の連絡帳を用いてやりとりをしています。




- す。在園児への配慮に関しては、担任を持ち上がりしたり、新入園の子どもたちが落ち着くまでフォローに入る職員の配置を厚くしています。
- 全体的な計画に基づいた年間指導計画（4半期ごとに区分して）を作成しています。月間指導計画・週間指導計画に関しては、子どもの主体的な活動を促すための環境作りやそのときの子どもの言葉、職員の言葉かけ等大切な部分を拾い上げ、作成をしています。それらを視覚的に追っていくことができるよう、ウェブ化した様式にしています。
 - クラスごとの月案検討会で、今の子どもを把握しています。ウェブ化した指導計画により、見えていなかった子どもの姿に気づき、子どもの思いを知る手がかりになったり、子どもの別の一面が見えたりしています。子どものある一場面の姿をさまざまな職員が見て、意見を出し合うことで、それぞれの見方、感じ方、関わり方を知ることができ、多様な視点からの読み取りの広がり生まれています。
 - 0歳児の保育は、職員はスキンシップをとり、ゆったりとした関わりをしています。保育室、園庭、テラスなどでハイハイや伝い歩きなど体を十分に動かすことができるようにしています。玩具、生活用具、絵本などが子どもの手の届く場所に置かれ、自分で手にすることができるようにしているほか、子どもの好奇心が育つよう、職員が使って見せたりしています。
 - 1歳児クラスは高月齢（2クラス）、低月齢（1クラス）で分けています。2歳児クラスも3クラスにし、保育室も分けています。子どもが自分で「できた」という気持ちに共感し、もっとやりたいの意欲を育てています。甘えの気持ちも受け止めて援助しています。子どもの興味・関心・発達に合わせてコーナーで落ち着いて遊んだり、探索活動が十分にできるようにしています。保育室の天窗から差し込む光と自分たちの影の不思議、変化する雲の不思議など、子どもたちの「これ何だろう」「なんでだろう」を職員も一緒に楽しむようにしています。
 - 3～5歳児クラスはそれぞれ2クラスあります。4、5歳児クラスはオープンプログラムで活動をしています。各クラス、子どもの主体的な活動を促すための環境作りやそのときの子どもの言葉、職員の言葉かけ等大切な部分を拾い上げています。
 - 3歳児クラスは、子どもの化石ブームに着目し、子どもが園庭でカラフルな石を見つけたときは恐竜の卵かもしれないと、4歳児に聞きに行きました。そこでの話で、さらに5歳児の恐竜博士を紹介され、色々な情報を教えてもらえました。
 - 4歳児クラスは、ゴザを敷いて「かぞくごっこ」をやりたいとの提案に何名もの子どもが「仲間に入れて」と集まりました。次の日にはそのそばでレストランができています。その次の日には子どもたちだけで「かぞくごっこ」が成立しています。
 - 5歳児クラスは、1泊2日の富士山の麓でのキャンプの様子を自分たちでドキュメンテーションを作り、廊下に掲示をしています。自動販売機づくりでは、アルバイトの募集をかけると保護者の応募があり、手伝ってもらいました。きちんとアルバイト料（紙のお金）も支払いました。
 - 1,360㎡ある広い園庭では、固定遊具をはじめ、自分の好きな場所で十分に体を動かしています。
 - 職員は、全体的な計画の「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」に照らし合わせながら、「子どもは、今を主体的に生きる」ことができるような保育を大切に考えています。
- <工夫している事項>
- ウェブ化した指導計画は保育室に掲示をしています。保護者への情報提供・共有はもとより、子ども自身が掲示物を見ながら、自分たちがどんなふうを考えをまとめていったのかを振り返ることができます。活動に参加していなかった子どもたちが関心を寄せ始める可能性にもつながっています。



	<ul style="list-style-type: none"> ・0歳児と1歳の低月齢クラスは子ども一人一人の日々の様子を伝え、成長の過程を保護者と共有ができるよう、個別のポートフォリオ（成長のアルバム）を毎日作り、保育室に置いています。
I-3 快適な施設環境の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・園舎内は毎日清掃をし、清潔な状態を保っています。保育室の窓を開け、風が通るようにしています。床暖房、空気清浄機を設置しています。季節に応じてエアコンで室温を調整しています。温・湿度計を備えているほか、子どもの様子や動きを見るなどしながら室温を調整しています。0～2歳児クラスはSIDS(乳幼児突然死症候群)チェック表に、3～5歳児クラスは保育日誌に温湿度の記録をしています。全保育室は掃き出し窓が大きく、陽光を取り入れることができます。職員の声も環境と考え、声の大きさやトーンに注意しています。
I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力 	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳未満児は、個別指導計画を作成しています。3歳児以上の子どもで特別な配慮が必要なときは、日誌の特記欄を活用しています。 ・個別の課題がある場合は職員会議や月案検討会で共通事項として話し合っ情報共有し、ほかの職員からの意見も参考にして保育や援助の柔軟な変更、見直しを行っています。 ・保護者には、離乳食の進め方、トイレトレーニング、伸ばしていきたい長所、こういう配慮がなぜ必要かなどについて園での工夫点を交えながら子どもの状況に合わせて説明し、同意を得ています。 ・子どもの成長発達記録は、0歳児と1歳児の低月齢クラスは日々の個別のポートフォリオを成長発達記録としています。1歳児の高月齢クラスと2歳児クラスはクラスのポートフォリオを残しています。3～5歳児クラスは3か月ごとに成長発達を記録しています。 ・入園時に把握した生育歴（児童票、健康台帳など）を始め、子どもの記録をファイルしています。事務室の鍵のかかる書庫に保管し、必要に応じて職員はいつでも見ることができます。 ・進級時には年度末の会議や引き継ぎ期間に配慮すべき事項を次の担任に伝えています。
I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な配慮が必要な子どもの保育について、職員会議、月案検討会、アレルギー会議の中でケース検討を行い、すべての職員が同じ認識を持って保育をするようにしています。外部研修でも学んでいます。 ・障がいがある子どもには、個々の特性に合わせ、それぞれを考慮した個別指導計画の作成をしています。集団生活を共に過ごす中で、障がいのあるなしにかかわらず、一人一人が居心地の良い環境作りに努めています。 ・虐待に関して、朝の子どもの表情や着替え時に良く見ることで子どもの状態を確認しています。子どもの何気ないつぶやきも聞き逃さず、虐待が疑わしい場合や見守りが必要なときは、泉区こども家庭支援課、横浜西部児童相談所、小学校、保健師など適切な関係機関や関係者と連携を図ることとしています。 ・食物アレルギーのある子どもの除去食の提供について、保護者との連携を密に取っています。アレルギーに配慮し、昼食は卵フリーで調理をしています。マニュアルに従い、除去のある子どもの食事は、専用のトレイ（子どもによって色を分ける）、専用の食器、ネームプレート、台拭きを使用しています。子どもの席は固定場所にし、職員がかたわらに座り、誤食のないようにしています。 ・外国籍や帰国子女など、配慮が必要な場合には、職員は、文化、生活習慣、考え方の違いを尊重しながら話し合っています。
I-6 苦情解決体制 	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情受付担当者は主任・解決責任者は園長とし、さらに、第三者委員の氏名・連絡先を入園のしおりに明記しています。他機関苦情解決窓口として、横浜市福祉調整委員会に相談できることを玄関に掲示しています。 ・意見箱（集金ポスト）を設置し、また、保護者懇談会で保護者の意向、要望を汲み取るように努めています。行事後、年度末にアンケートを行って保護者意見を把握しています。 ・第三者委員を交えて苦情・要望の対応をしています。苦情については、苦情解決処理規定に基づいて処理されており、平成26年度からの苦情の申し出から

対応までの記録をしています。また、園のみで解決できない場合は泉区こども家庭支援課と連携して対応することとしています。

評価領域Ⅱ 保育の実施内容



評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅱ－１ 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが主体的に活動できるように、0、1歳児の保育室のおもちゃは、子どもの目線の高さに合わせた低い棚に置き、子どもが自分で取り出したり、片付けができるようにしています。2～5歳児の保育室は、子どもの成長や発達、興味関心に応じたコーナーを作り、好きなコーナーで遊べるようになっています。 ・4、5歳児のサークルタイム以外の時間は自分が好きな遊びを行う時間となっていて、子どもが好きなことをして遊びこめる時間が十分に確保されています。幼児クラスはランチルームが開いている時間にお腹がすいた子どもから移動して食事をしています。 ・日常の保育の中で、子どもたちの発想を集団遊びやコーナー遊びに発展させ、保育室には病院やアイスクリーム屋さんコーナーなど様々な遊びのスペースがあり、子どもたちの発想や興味が生かされています。 ・園内の畑でサツマイモやニンジン、大根、ピーマンなどを栽培しています。収穫したサツマイモをクッキーや焼き芋にしたり、園庭の植栽の実った柚子をジュースにするなど、食育活動につなげています。園庭でウサギを飼い、5歳児が世話をしています。保育室ではヤモリや園庭や公園で採集した昆虫を飼育し、エサやりなどを通していろいろなことに気づき、保育室に図鑑なども備えて興味関心を深めています。 ・保育室や廊下に段ボール箱や空き箱などの廃材や季節のどんぐりや小枝などいろいろな素材を用意して、子どもたちは様々な用具を使って自由な発想で製作できるようにしています。子どもたちはハンドベルや電子オルガンを使って自由に歌ったり、保育室のコーナーで自由に絵や文字を描いています。 ・異年齢の交流は園庭や玄関、図書コーナーなどで自然に行われています。お芋ほりやクリスマス会、お別れ会では3～5歳児は縦割りのグループで活動しています。職員が子どもに対し、働きかけや配慮をしなくても、子どもが自ら低年齢のクラスの着替えの手伝いなどを行っています。 ・園庭には様々な遊具があり、盛んに園庭遊びが行われています。子どもの発達段階に合わせて全身を使って活動しています。0歳児の保育室には組み合わせマットを設置して、安全に配慮しながら運動能力を高められるようになっています。5歳児は毎月サッカー教室があり、専門コーチから指導を受けています。 <p><工夫している事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが興味を持った活動をドキュメンテーション、ポートフォリオとしてエピソード、写真を添付して掲示し、職員が子どもの遊びの展開などを予測しながら子どもが主体的に活動を広げていけるようにしています。 ・子どもたちが興味を持った職業について、地域の店舗に協力を依頼し、パン屋や美容院などを見学に行くなど地域の店との交流を深めています。
<p>Ⅱ－１ 保育内容[生活]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳児以上はランチルームで食事をし、4、5歳児はメニューによっては自分で盛り付けるバイキング方式を取り入れています。職員は残さず食べることを強制せず、少食や好き嫌いのある子どもに対しては盛り付けのときに量を減らしています。 ・1歳児から水やりや収穫などの栽培活動を行い、2歳児からそら豆のさやだしやトウモロコシの皮むきなど調理に参加する機会を設けています。玄関に翌日給食で使う白菜などの旬の食材を掲示し、0歳児から見たり触ったりして、様々な食材に触れる機会を取り入れています。 ・乳児の授乳にあたっては、登園時に保護者に授乳した時間を確認し、子どもの様子を見ながら次の授乳時間を決めています。授乳の時は主担当の職員が必ず抱っこして声かけし与えています。離乳食も個々のペースを尊重し、「モグモ

	<p>グ カミカミ ゴックン」などと声かけをしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・七夕そうめんやたけのこご飯などの行事食の献立や、旬の野菜や果物を使い、素材が生きるような調理方法や盛り付けをしています。気候のいい季節にテラスで給食を食べたり、テーブルに季節の花を飾るなど食事の雰囲気作りに配慮しています。 ・2～5歳児クラスの職員は一緒に食事をしています。0、1歳児は食事の見守り、介助をして、一人一人の食べる量を把握し、少食や好き嫌いのある子に対しては、配膳のときに量を減らしたり、食べにくいものは小さく切るなど工夫しています。 ・調理員は残食状況を確認し、給食日誌に記録して、調理の工夫に反映しています。給食会議で、盛り付けや刻み方などの調理方法の工夫を話し合っています。 ・子どもの食生活について、家庭と連携できるように、毎月末に翌月の使用される食材の詳細が記載された献立表を配付しています。 ・保育士体験の保育参加の際と父母会の総会で給食の試食を行い、調理員がだし汁を取ったり、うす味にしているなど、園での給食の配慮について説明をしています。 ・午睡の時間に眠れない子どもには、休息が大切であることを大事に考え、横になって静かに休息するように促しています。眠れない子どもには静かに絵本を見たりして過ごすようにしています。5歳児の午睡は自由となっています。 ・排泄は個人差があることを十分に配慮し、職員は、排泄チェック表を使用して一人一人の排泄リズムを把握し、無理に誘うのではなく自らトイレに行きたいという気持ちを大切にして、排泄のリズムを自然に作れるようにしています。 ・トイレトレーニングは、一人一人の発達を捉え、トイレに興味を持ったり、トイレに座ろうとするなどそれぞれの子どもの様子を見ながら、子どものペースで進めています。 ・長時間にわたる保育のために、子どもがくつろいで、心地よく過ごせるように、ランチルームのテーブルの配置を小人数で遊べるように工夫しています。
<p>Ⅱ－2 健康管理・衛生管理 安全管理 [健康管理] </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断、歯科健診を年2回実施し、結果を個々の児童健康台帳に記入し、クラスごとにまとめて保管しています。結果は保護者に書面で知らせ確認の印をもらっています。健康診断・歯科健診の結果によっては治療を勧めたり、園での指導の参考にしてしています。健診前に保護者からの質問票を受け付け、医師からの回答を伝えています。 ・感染症については感染症マニュアルに基づき、入園時に感染症罹患時の登園禁止期間、登園時の医師による登園許可証明書の提出などを保護者に説明しています。感染症が発生したときは、玄関、クラスに掲示して即日保護者に伝えています。ほけんだよりを毎月発行し、感染症の情報や対応の仕方を掲載しています。
<p>Ⅱ－2 健康管理・衛生管理 安全管理 [衛生管理] </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生管理マニュアルが整備されており、施設・設備・玩具などの清掃消毒方法が明記され、年に1回、内容を確認しています。マニュアルの内容の見直しがあった場合は職員会議で説明され、全職員に周知しています。嘔吐処理の方法は毎年研修を行っています。 ・園舎内外は職員が分担して清掃されおり、清潔かつ適切な状態が保たれています。清掃チェック表が作成され、トイレに置いています。調理職員は毎年衛生管理の研修を受けています。
<p>Ⅱ－2 健康管理・衛生管理 安全管理 [安全管理] </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地震・火災・風水害・事故などに対応した「安全管理マニュアル」があり、適切に対応できるようになっています。地震対策として保育室は低い棚になっていて、棚はゴム製の転倒防止器具で安全対策が講じられています。水槽やラジカセは滑り止めのマットを使用しています。施設の安全チェックは「安全点検表」に基づき保育室、園庭などを毎日チェックし、おもちゃの破損なども確認しています。 ・睡眠中、プール活動、水遊び中、食事中等の場面で重大事故が発生しやすいことを理解し、睡眠中は呼吸チェックを行い、プール活動時は監視員をたて、食




	<p>事では一人一人の発達にあわせた食事形態で提供し、口に食事が入っているときはおしゃべりしないように伝えて事故発生について理解し、事故が起こらないように注意しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間避難訓練計画書を作成し、火災や地震などに応じた避難訓練を毎月実施しています。毎年、全職員が救急救命法の講習を受講しています。 ・事故や怪我の発生時及び事後の対応のため、地域、救急機関の緊急連絡先をリスト化しファイルし、保護者の緊急連絡名簿は保育室、緊急連絡表については事務所で保管されています。 ・事故が発生したときは「事故報告書」を作成し、職員会議で話し合い、原因を探って、再発を防ぐための改善策を検討し、実行しています。ヒヤリハットについては保育日誌、ヒヤリハットノートに記録し、職員間で情報を共有しています。職員が把握した子どものケガなどは、保護者にも連絡ノートや口頭で必ず報告しています。 ・外部からの侵入に対する対応は、園内に 12 台の防犯カメラを設置し、門は電子錠になっています。警備会社と契約して、24 時間の不審者対応を行い、警察への緊急連絡装置も設置しています。 ・不審者などを想定した防犯訓練を行っています。泉区の学校警察連絡協議会や、泉防災協会から最新の不審者情報がメールで届き、提供された情報は玄関に掲示し保護者にも伝えていきます。
<p>Ⅱ－３ 人権の尊重 </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに対して威圧的な言葉遣い、無視が行われないように、園内研修で NG ワードや適切な言葉がけ、対応について確認しています。職員間で、子どもに対する言葉遣いなどに問題があった場合は、相互チェックを行っています。 ・全国保育士倫理綱領を更衣室に掲示し、職員は子どもの要求や質問に対して無視や拒否することなく、優しく耳を傾け、その主張を受け止めるように努めています。自分の思いが表に出るため、職員の所作にも意識を置くようにしています。 ・職員が子どもと一対一で話し合いができる場所として、図書コーナー、小ホール、ランチルームなどがあり、プライバシーが守れる空間を確保できています。 ・2～5 歳児の保育室はいくつかの棚や机でコーナーに分かれ、一人で絵本を読んだり、ゆっくりとできるスペースを確保しています。 ・研修や会議で全職員は個人情報の定義や守秘義務の意義や目的について周知し、ボランティアや実習生にもオリエンテーションで説明し、誓約書を提出してもらっています。 ・入園説明会で「入園のしおり」を配付し、個人情報保護について保護者に説明し、HP などへの子どもの写真を掲載することについては、書面で保護者の同意を得ています。保護者宛の行事案内の中で、写真撮影の際の留意点についてお願いしています。個人情報が含まれる書面を渡す際は、間違いがないようにダブルチェックを行っています。 ・職員は性差への先入観による役割分業意識を植え付けないよう留意し、名簿やロッカー、散歩のときの順番など性別にしません。製作などでは職員が子どものやりたいものを聞き、複数の色を準備し自ら選ぶ気持ちを大切にしています。
<p>Ⅱ－４ 保護者との交流・連携 </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が保育の基本方針を理解できるように、基本方針は入園説明会やクラス懇談会で配付資料にわかりやすく掲載し、保護者に説明しています。入園時に配付する「入園のしおり」や「保育園のご案内」に、運営方針・運営理念、園目標が記載されています。 ・年度末に、保護者向けアンケートを実施し、保育方針が理解されているか把握しています。年度末のアンケート結果は、園内に掲示し、ホームページでも掲載しています。 ・登園時に職員が必ず子どもの家庭での様子を聞き、降園時に、できるだけその日の様子を口頭で伝えるようにしています。3 歳未満児には連絡ノートを使用し、その日の様子、排泄状況、食事量などを記載し、保護者に伝えています。

	<ul style="list-style-type: none"> ・6月と11月に保護者面談の期間を設定し、必ず2回以上の個人面談を行っています。保護者から個人面談の要望があれば対応しています。 ・クラス懇談会を年2回実施し、参加できなかった保護者には、配付資料や議題についてまとめた文書を渡しています。 ・保護者からの相談は面談室を利用し、面談中はプレートを掲げています。相談内容は、個人ごとにファイルされ、必要に応じて職員会議で対応策を検討し、継続的なフォローができています。 ・「園だより」「クラスだより」は毎月配付し、毎月の行事日程と各クラスの今月のねらいなどを記載しています。 ・保護者の保育参加を進めるため、年度当初に年間行事計画を保護者に配付しています。 ・保育参観は保育参観週間として1週間を設定していますが、希望に応じていつでも受け入れています。保育参加として、0～2歳児の保護者には保育士体験に参加してもらい、3～5歳はソーメン流しなどの親子リクリレーションを行っています。 ・保護者の自主的な活動として保護者会があり、保護者会の話し合いなどに保育室の提供をし、保護者が話し合い中の子どもには保育対応をしています。 ・保護者会の総会には主に園長が出席し、芋ほりや餅つきなどの保護者会主催のイベントには職員も出席しています。 <p><工夫している事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常の活動の様子は、各クラス職員が常時デジタルカメラを携帯し、折に触れて写真を撮り、ポートフォリオ、ドキュメンテーションにして、保育室や廊下に掲示し、保護者にわかりやすく伝えています。 ・クラス懇談会では行事を通しての成長がわかるようにドキュメンテーションで行事までの過程やエピソードを話しています。
--	--


評価領域Ⅲ 地域支援機能



評価分類	評価の理由（コメント）
Ⅲ－1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市や泉区の園長会、泉区幼保小連携会議などの会合のほか、子育てネットワーク会議では、保育園、地域関係者（自治会代表者、民生委員）、子育てサロン・子育てサークル関係者などと、子育て環境の向上と地域ごとの連携や支援について意見交換を行っています。 ・年度初めの職員会議で昨年度の子育て支援の実際を振り返り、子育て支援ニーズについて話し合っています。具体的な子育て支援事業として、園庭開放（毎週木・土曜日、10時～11時30分）を行ったり、カンガルーデー（毎月第2第4火曜日、10時～11時）では、多目的室で担当職員がふれあい遊びなどを提供しています。0、1歳児向けの交流保育は給食の試食もできます。年1回の移動動物園には80～90組の地域の子育て世代の人々が参加しています。
Ⅲ－2 保育所の専門性を生かした相談機能 	<ul style="list-style-type: none"> ・園入り口の掲示板に園庭開放日程やカンガルーデーなど子育て支援の案内を掲示しています。泉区地域子育て支援拠点すきっぷに情報提供をしたり、地域の子育てサロンやコミュニティハウスに園のお知らせを置かせてもらったりしています。 ・育児相談は園庭開放日とカンガルーデー開催日のほか、随時対応しています。相談内容によっては、泉区役所、学校関係、自治会、民生児童委員、横浜市西部児童相談所など各関係機関と連携を図っています。

評価領域Ⅳ 開かれた運営


評価分類	評価の理由（コメント）
Ⅳ－１ 保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所に対する理解促進のために、移動動物園、運動会、七夕、お餅つきなどには地域の親子や卒園児に参加を呼びかけています。また、地域の夏祭りや園児が手作りのお神輿を担ぐなど自治会と計画的に交流を図っています。 ・学校教育との連携は、中田小学校と５歳児が定期的に交流を行い、中学生の保育体験を受け入れています。 ・３歳以上児は白百合公園のプールを利用し、５歳児は湘南台のプラネタリウムに見学に行くなど、地域の施設を有効に利用しています。 ・カレーパーティの食材をJAや生協店に買い物に行き、散歩の途中で会う地域の人たちにも挨拶をして、地域の人達と接する機会があります。泉区内の保育園の５歳児が合同で富士山へ１泊２日の宿泊キャンプを行っています。
Ⅳ－２ 保育所における福祉サービスに関する情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の利用者が関心のある事項について、横浜市子ども青少年局はびねすぽつとや園のホームページで情報提供しています。 ・利用希望者からの園への問い合わせに対しては事務所に園のしおりを常に準備して対応し、見学できることを伝えていきます。園内の見学については、見学日を設けていますが、利用希望者の要望に合わせて柔軟に対応しています。
Ⅳ－３ ボランティア・実習の受け入れ 	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルに基づきボランティアを受け入れ、ボランティアに対して園の方針、利用者への配慮などについて説明しています。 ・泉区社会福祉協議会から小中高生サマーボランティアと年に１回人形劇のボランティアを受け入れています。 ・実習生受け入れのためのマニュアルがあり、受け入れの際には、事前にオリエンテーションを行い、園の理念・方針などを説明しています。 ・実習生の受け入れにあたり、職員に対しては会議等で周知し、保護者には玄関に掲示して周知を図っています。 ・実習の目的に応じてプログラムを考える等の工夫をしています。保育士養成校のインターシップを受け入れています。担当職員は、毎日実習生との反省会を設け、意見や質問に対応しています。



評価領域Ⅴ 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
Ⅴ－１ 職員の人材育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・園長はクラス編成、個々の経験年数など全体のバランスや本人の希望を考慮し、人員配置を行っています。人材の補充は法人理事長に相談しながら園長が中心となり、職員の確保に努めています。 ・「白百合愛児園研修体系」に基づき、４段階のキャリアステージ別の人材育成計画が策定されています。 ・園長は勤務体制の工夫等により外部研修に参加しやすいよう配慮しています。また、保育の可視化の取り組みのためのカンファレンスやワークショップ、保育室内環境設定、園庭環境の見直しなど毎月園内研修を実施しています。 ・職員はお互い協力し、常勤、非常勤に関わりなく役割分担をしながら保育にあたっています。経験豊かな非常勤職員もおり、常勤職員を支えています。 <p><工夫している事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員会議、園内研修など全職員出席を基本として取り組んでいます。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員にどのような知識や技術を習得する必要があるかについては「白百合愛児園研修体系」にて資質向上を行っています。今後は、個々の職員に着目した目標設定と達成度の評価の仕組みの確立についても期待されます。

<p>V-2 職員の技術の向上 </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画に対する自己評価のほか、園の自己評価を職員が話し合い、まとめており、自己評価を計画的に行う仕組みになっています。 ・園の保育の実践事例（ポートフォリオやドキュメンテーション）を大学の保育フォーラムや企業に招かれ職員が発表をしています。 ・ポートフォリオやドキュメンテーションに関しては、保育研究者からアドバイスを受けています。 ・ウェブ化した指導計画には、次月の子どもの姿を書き込んでいきます。そうしていくことで、翌月には実際の様子が展開されるので、それを評価・反省し、また、次の発展を考えていきます。保育の振り返りは、子どもが遊びの中で経験していること、次に必要な経験を実践するため、職員は子どもを良く観察しています。保育時の職員の配慮及び子どもの姿、職員の気づきなど丁寧なカンファレンスを積み重ねています。保育を振り返る際は、結果だけにとらわれず、子どもの思いを汲み取り、子ども主体の活動になるような環境を整えていくその過程を大切にしています。子どもの興味・関心を切り取り、ウェブ化した月間指導計画を立てています。子どもの興味・関心がほかの子どもにも広がったり、遊びの発展が見られる場合（船作り、自動販売機作りなど）は継続していきます。子どもに新しい興味・関心が見られるとき（化石、お相撲など）は、新たなウェブ化した指導計画を作成しています。 ・毎月の月案検討会（ウェブ化した指導計画を作成するワークショップ）で、計画の自己評価と次月への反映について話し合っています。年間指導計画については、年度末の会議で話し合い、次年度の計画に反映させています。今年度は第三者評価受審にあたっての自己評価にも取り組んでいます。 ・園長は、職員の自己評価結果を確認し、園としての課題を抽出しています。翌年度にさらに力を入れるべきことを研修計画に反映し、改善に取り組んでいます。保護者アンケート結果も反映しています。園の自己評価は、園内掲示で公表しています。
<p>V-3 職員のモチベーションの維持 </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の総合的な人事管理体制として、園の規程類に人事基準の規定を定め職員に周知しています。人事考課については園長から示されます。 ・クラス運営に関しては、自分のクラスに何が必要なのか、クラスの子どもの年齢、発達に適切な指導になっているかなど職員は責任を持って対応しています。判断が難しい場合の最終的な結果責任は、園長が負う体制になっています。また、園内研修、子育て・保護者支援、保健・安全、障がい児、食育などについて、職務分野別リーダーと専門リーダーが決められ、それぞれ責任をもって活動しています。 ・園長は職員との個人面談を年1回行い（必要に応じて随時）、満足度や要望など把握に努めるとともに、職員に気づきを与えるような言葉かけを心がけ、モチベーションの維持、向上への働きかけを行っています。その他、毎年、産業医面談によるストレスチェックを行っています。

評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>VI-1 経営における社会的責任 </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の守るべき規範については、就業規則に明記し、職員に周知しています。 ・経営、運営状況等の情報は、社会福祉医療機構、財務情報開示システムにより公開をしています。 ・新聞やニュース報道など他園の不正、不適切な事例なども会議で話し合い、不適切な行為を行わないように意識を高めています。 ・園の規程類に事務、経理、取引等に関するルールや職務分掌と権限・責任が明確にされています。経理に関し、契約公認会計士による月次処理があります。 ・環境に配慮した保育については、横浜市資源循環局の子ども向けの横浜3R夢スクールを受けています。廃材を集め、遊び道具や備品作り、子どもの製作に活用しています。照明はLED、外灯は自動点灯・点滅にして省エネルギーの促

	進を図っています。
VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等 	<ul style="list-style-type: none"> ・園運営で重要な意思決定があるときには、園長が説明する機会やお知らせ配付をすることとしています。例えば、主食の変更について、これまでの現金集金から振り込みの変更にあたり、説明をし、理解を求めています。 ・園長のリーダーシップの下、子どもに関わる全職員を「保育者」として、保育士（常勤・非常勤）、栄養士、調理職員、事務職員が日常的に連携を図り、子どもの育ちを支えています。 ・「白百合愛児園研修体系」により、主任クラスの人材育成が計画的に行われています。現在、主任1名、副主任4名（2名はフリー）を配置しています。主任は積極的に現場に入ってコミュニケーションを図り、各クラスチーフからの情報なども得て、個々の職員の業務状況を把握しています。それらを考慮してシフト表を作成（副主任）しています。
VI-3 効率的な運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・園長は、横浜市や泉区の園長会、保育団体の研修会や通信、法人内の園長会などで事業運営にかかわる情報の収集をし、分析をしています。また、福祉新聞、教育新聞、保育情報雑誌なども購読し、世の中の変化により、保育に何が求められているかキャッチするようにしています。 ・園運営に関し、「白百合愛児園中長期計画」を立て、園の方向性を定めています。中長期計画を踏まえた単年度事業計画を策定しています。運営に関して、専門家（公認会計士、社会保険労務士、保育研究者、産業医）などの意見を取り入れています。

利用者家族アンケート

事業所名：白百合愛児園

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

結果の特徴

◇ 調査対象

調査時点での在園児数200名、全保護者180家族を対象とし、回答は134家族からあり、回収率は74%でした。

◇ 調査方法

評価機関で準備した「家族アンケート用紙」と返信用封筒を、保育園から保護者に直接渡し、約2週間後までに密封して匿名で保育園で用意した回収箱に入れてもらい、密封のままの状態の評価機関が回収しました。

◇ 総合満足度

肯定的な回答は96%(満足73%、どちらかといえば満足23%)と高い評価を得ており、否定的な回答は4%(どちらかといえば不満3%、不満1%)でした。

◇ 比較的満足度の高い項目 (肯定的回答が96%以上)

- 1) 問1 で 「保育園のすごし方の説明」……………96%
- 2) 問4 「遊び」で 「戸外遊びを十分しているか」……………99%
- 3) 「おもちゃや教材は」 ……………98%
- 4) 「遊びを通じた友だち、先生の関わり」……………97%
- 5) 「生活」で 「子どもの体調への気配り」……………97%
- 6) 問6 で 「保護者懇談会や個別面談」……………96%
- 7) 問7 で 「お子さんは保育園生活を楽しんでいるか」……………98%

◇ 比較的満足度の低い項目 (否定的な回答が12%以上)

- 1) 問4 で 「保育中のケガに関する保護者への説明」……………12%
- 2) 問5 で 「外部からの不審者侵入防止」……………24%
- 3) 問6 で 「送り迎え時のお子さんの情報」……………12%

調査結果

■園の基本理念や基本方針について

施設の基本理念や基本方針の認知	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
	%	13	58	16	10	1



問1で「よく知っている」、「まあ知っている」と回答した方のうち

付問1

理念や方針への賛同	賛同できる	まあ賛同できる	どちらともいえない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答
	%	66	27	5	2	0

■施設のサービス内容について

問2 入園した時の状況

	%	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
		見学の受け入れについては	63	20	1	0	16
		その他:					
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	56	36	1	0	6	1	
		その他:					
園の目標や方針についての説明には	48	44	1	0	5	2	
		その他:					
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応については	58	37	3	0	2	0	
		その他:					
保育園での1日の過ごし方についての説明には	56	40	2	0	2	0	
		その他:					
費用やきまりに関する説明については (入園後に食い違いがなかったかを含めて)	57	35	5	1	2	0	
		その他:					

問3 保育園に関する年間の計画について

	%	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
		年間の保育や行事についての説明には	46	49	4	0	1
		その他:					
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	35	49	8	0	8	0	
		その他:					

問4 日常の保育内容について

遊びについて

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	71	24	2	2	1	0
	その他:					
子どもが戸外遊びを十分しているか については	86	13	1	0	0	0
	その他:					
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置 いてあるか、年齢にふさわしいかな ど)	80	18	2	0	0	0
	その他:					
自然に触れたり地域に関わるなど の、園外活動については	65	27	3	2	3	0
	その他:					
遊びを通じて友だちや保育者との関 わりが十分もっているかについては	70	27	1	1	1	0
	その他:					
遊びを通じたお子さんの健康づくり への取り組みについては	61	34	2	1	2	0
	その他:					

生活について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	76	19	2	2	1	0
	その他:					
お子さんが給食を楽しんでいるか については	68	27	2	2	1	0
	その他:					
基本的な生活習慣(衣服の着脱、手洗 いなど)の自立に向けての取り組み については	55	38	5	0	2	0
	その他:					
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じ て対応されているかなどについては	64	30	4	1	1	0
	その他:					
おむつはずしは、家庭と協力し、お 子さんの成長に合わせて柔軟に進め ているかについては	53	25	8	2	12	0
	その他: まだ、始めていない。おむつが外れてから入園した。					
お子さんの体調への気配りについて は	57	40	2	1	0	0
	その他:					
保育中にあったケガに関する保護者 への説明やその後の対応には	54	33	9	3	1	0
	その他:					

問5 保育園の快適さや安全対策について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
施設設備については	58	36	5	1	0	0
	その他:					
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	58	36	5	1	0	0
	その他:					
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	26	49	17	7	0	1
	その他:					
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	48	47	4	0	1	0
	その他:					

問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	53	43	4	0	0	0
	その他:					
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	61	33	4	1	1	0
	その他:					
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	62	33	5	0	0	0
	その他:					
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	42	46	8	4	0	0
	その他:					
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	49	41	8	0	2	0
	その他:					
保護者からの相談事への対応には	51	43	2	2	2	0
	その他:					
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	61	27	1	1	10	0
	その他:					

問7 職員の対応について

		満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	%	62	33	3	1	1	0
	その他:						
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	%	72	26	2	0	0	0
	その他:						
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	%	50	30	1	0	17	2
	その他:						
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	%	60	35	3	1	1	0
	その他:						
意見や要望への対応については	%	48	42	4	2	4	0
	その他:						

問8 保育園の総合的評価

		満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答
総合満足度は	%	73	23	3	1	0

観察方式による利用者本人調査

平成2年1月14日

事業所名：白百合愛児園

【園庭遊び】

全クラスの子どもが保育士の見守りや関わりの中、園庭の思い思いの場所で思い思いの遊びをしています。砂遊びで使う水を水道の蛇口をひねって容器に入れている年上の子どもの様子を見ていた0歳児が、真似をしてペットボトルに入れようとしています。水は入れられませんが、子どもは自慢げに「どう？」という表情を見せます。低年齢児用の小さなすべり台では自分で登り、保育士の「おいで～」の声で、自分で滑り降ります。ウサギ小屋の前では1歳児が中を興味津々の様子で顔をくっつけて覗き込んでいます。アリに興味を持った子どもはしゃがみ込んで動きを追います。「いた～」「あは～」と指で摘まもうとしますが、アリの方が動きが早く逃げられます。鉄棒に縄跳びをつなぎブランコにして2歳児がバランスよく上手に立ち漕ぎをしています。登り棒のところでは、クッション性のあるサイコロ状のものを踏み台代わりに3つ積み上げて、登り棒に挑戦しようとしています。瞬間、台のバランスが崩れ、子どもは登り棒にしがみついた形になってしまいました。保育士がすぐに抱き留めますが、子どもはびっくりしたのと、自分のイメージとは違った結果になってしまったことが悔しいのか保育士に抱かれながら大泣きをしています。別の場所で、泥遊びに夢中になっている子どもたちもいます。

突然、地震が起これると、保育士が子どもたちを園庭の中央に呼びよせます。低年齢の子どもの手を引いたり、抱っこして速やかに集合します。態勢のとれる子どもはダンゴムシの形に体を小さくします。少しの間、その状態を保ちましたが、安全確認後は「もう大丈夫だよ」「びっくりしちゃったね」と、また遊びに戻ります。

【0歳児】

<活動や遊び>

園庭から戻り食事までの時間、子どもは自分で棚からおもちゃを出したり、鏡に向かって「わー」と自分の姿に興味を示したりしています。機嫌が悪くなった子どもは保育士の膝で絵本を読んでもらい始めると泣き止みます。ほかの子どもたちも何人か集まり「ぐちゃぐちゃ、めちゃくちゃ・・・」と言葉のリズムを楽しんでいます。4歳児2名が付いてきて着替えの手伝いをします。保育士が「どうもありがとう」と伝えると「またね～」と言い、また、自分の遊びに

戻っていきます。

<排泄>

ベビーベッドの上で、おむつ替えをしています。「よいしょ」「はいさっぱりしたね」保育士は声をかけています。

<食事>

食事は一斉でなく、個別に「いただきます」をしています。月齢の高い子どもは自分でフォークを使い、上手に食べています。早く食べたそうに体を揺らし「あーあー」と催促をする子どもがいます。「お待たせ。はいどうぞ」と子どもの前に配膳をすると、手づかみで勢いよく食べ出します。保育士は「おいしいね～」「モグモグしようね」など子どもの様子を見ながら声をかけています。「とーふ?」「とーふあった?」味噌汁の中身に子どもは興味を示します。

<午睡>

カーテンを少し引き、静かな環境を作っています。すでに寝ている子どもがいます。横になり保育士に優しくトントンしてもらい眠りに入りそうになっている子どももいます。「ねんね」「ねんねする?」とこれから横になろうとしている子どももいます。

【1歳児】

<活動や遊び>

職員の手作りおもちゃや道具が多く、子どもたちはそれらも使いこなしています。陽だまりのテラスでは、牛乳パックをコの字型にした道具を乗り物に見立て、またがりながら進めて遊んでいます。棚に入っているミルク缶で作ったぽっとな落としに夢中になっている子どもがいます。小さめのペットボトルを2つつなぎ、液体とキラキラした素材を入れたスノードーム風のおもちゃを調査員に自慢げに見せてくれる子どももいます。

<食事>

保育士も同席し、会話をしながら食事をしています。「先生つくね食べようかな」「どうぞ」「あつまれ(して)」「はいどうぞ」「〇ちゃん、お野菜食べる?」「うん」「つくねもあるよ」和やかな時間が流れます。しばらくしてまた保育室を覗くと、ほかの子どもは寝てしまったり、遊んでいたりしていましたが、食事を摂る保育士の膝に乗り、保育士を独占してのんびり食事をしている子どもがいました。

<午睡>

保育士に頭やおでこを撫でてもらったり、優しく背中をトントンしてもらったりしています。ごく静かな声の保育士の子守唄が聞こえます。子どもの性格に配慮をして、衝立で仕切って一人で眠りやすいようにしています。保育士が

添い寝をし、絵本を読んでもらっています。まだその気分でない子どもは、おもちゃで遊んでいます。

【2歳児】

<活動や遊び>

食事が済むと、保育室の遊びの場に行き、ぬいぐるみ、パズル、折り紙、ままごと、クリップなど、一人だったり友だち同士だったりとまた遊び始めます。

<排泄>

保育士の見守りの中、便器に座ります。排泄を済ませると保育士が用意しておいたパンツ（紙パンツもあり）とズボンを自分ではきます。パンツをはかなくて遊び始めた子どもに「〇くん、パンツはいて下さい」と保育士はさり気なく促しています。自立をしている子どもは自分のタイミングでトイレに行っています。「せんせい、手あらってきた」と子どもが伝えると、「はい、おかえりなさい」と保育士が応えます。

<食事>

ご飯が食べたくなると子どもは保育室内の食事の場所に来ます。席は自由です。席が決まると保育士が配膳をしてくれます。保育士は子どもの様子を見ながら、順次各テーブルに着いて子どもと同じ食事を摂ります。食欲旺盛な子どもはお代わりをします。職の細い子どもは「せんせい、ごちそうさましていい？」と聞きます。子どもの表情を見て保育士は「もういいの？わかった。のこしていいよ」と伝えます。

【3歳児】

<活動や遊び>

3歳児は園庭で思い思いの遊びをしています。道具入れの台に上がって、数人がステージに見立てて「パプリカ」を、振りをつけながら歌っています。ステージの周りでも子どもや保育士と一緒に歌っています。滑り台の遊具で遊んでいる子もいます。滑り台を下から登ってくる子どもと上から滑ってくる子どもがいますが、途中で譲り合っていました。井戸の手押しポンプから水を汲んで砂場に運びままごと遊びをしている子どももいます。保育士は子どもたちの動きを見守りながら、手押しポンプが使えない子どもには「お水使うの」と声かけながら手伝っていました。

歯磨きが終わった子どもから保育室前のテラスで遊んでいます。レールをつなげて電車遊びをしている子どもがいます。保育士と一緒に遊びに入りながら「〇〇ちゃん、後ろにお友達いるよ」と声をかけています。テラスの広場に描かれた円の中で相撲が始まりました。土俵の周りでは順番待ちと声援する子ども

もたちが輪になっていました。

<排泄>

保育士が「そろそろ、ランチルームが開いたよ。おなかですいた子は給食にしよう」と声をかけると使っていた遊具を片付け、保育室に戻ります。保育室に戻った子どもは順番にトイレに行きます。保育士はトイレを済ませた子どもの状態をみながら「汚れたから着替えようか」と声をかけています。

<食事>

自分のお弁当箱と食具・ランチョンマット、自分のネームプレートを持ってランチルームに行きます。入口に名前のプレートを置き、空いている席にランチョンマットを敷き、お弁当を置きます。席が見つけれない子どもに保育士は「向こうの席空いているよ」と伝えています。席が決まった子どもは、配膳用のテーブルからおかずのプレート、汁椀を順番に運び、全て揃った子どもから食べ始めます。子どもたちはおしゃべりをしながら楽しそうに食べています。お弁当箱を落として主食がなくなった子どもに保育士は「新しいご飯持ってくるね」と声をかけ、調理員に伝えて、園のお弁当箱に入れたご飯を渡していました。保育士と一緒に食べながら、「〇〇ちゃん、ご飯もう少しだね。集めてあげるね」と伝えると、子どもは残ったご飯を食べて、きれいになったお弁当箱を保育士にうれしそうに見せていました。

食事が終わった子どもから、食器とお弁当箱を片付けて保育室に戻ります。お弁当箱を片付けた後、テーブルに置かれた自分の歯ブラシで歯磨きし、保育士に仕上げ磨きをしてもらっていました。

【4、5歳児】

<活動や遊び>

子どもたちは園庭や保育室の好きなコーナーで遊んでいます。園庭では上り棒や鉄棒、鉄棒に縄跳びを結んでブランコのようにして遊んでいる子どももいます。2歳児の妹と一緒に乳児の保育室前で遊んでいる子どももいます。3歳児が保育室に戻ってからは、園庭を5歳児だけで広く使ってサッカーが始まりました。

保育室では不織布を使って縫物をする子どもや紙でお寿司を作っている子ども、「次は何のお寿司？」と聞くと、「サーモン」と答えていました。ゴミ袋を使ってドレスを作り、色付きのセロファンでリボンなどの飾りつけをしている子どももいます。ガラス越しの日光がドレスに当たり、床に光の影ができています。保育士が「きれいだね」と写真を撮ると、子どもは笑顔になって、別の色のセロファンで飾りつけを続けていました。

5歳児のグループでは、自動販売機を製作するというこで、職員と一緒にの

こぎりを使って板を切っています。のこぎりを使う順番の列ができていました。

遊んでいるときに地震の警報が鳴りました。外で遊んでいる子どもたちは園庭の中央に集まって座り、保育士は「地震だから集まって」と遊んでいる子どもにも声をかけ、集まった後に人数を数えて報告していました。保育室でも子どもたちは机の下にもぐって頭を守る形で静かにしていました。保育士が、「大丈夫だよ」と声をかけると、また元の遊びに戻って行きました。

【4、5歳児】

<食事>

ランチルームのテーブルにランチョンマットを敷き、お弁当箱を置きます。主菜のミネストローネは調理員がよそい子どもたちに渡します。副菜のサラダは子どもが自分で盛り付けして、席に運びます。準備ができた子どもから「いただきます」をして食べ始めました。おしゃべりしながら食べる子どもや、あっという間に食べ終わって片づけをし、保育室に戻る子ども、それぞれのペースで食事をしていました。食事が終わって教室に戻った子どもに保育士は「歯磨きするよ」と声をかけていました。歯磨きが終わった子どもは塗り絵や、絵本、恐竜図鑑、ピアノを弾くなど好きなコーナーで遊びを始めていました。

第三者評価を受審して

第三者評価を受審するにあたり、まずは、評価機関をどう選択するかという問題がありました。今回は、2回目の受審になります。前回受審した評価機関を選択するということも考えましたが、様々な視点から当園の保育を評価していただきたいとあえて違う評価機関をお願いいたしました。

前回の受審経験のない職員もいますので、初回と同じように、全員が、自己評価を行うことで、自分自身が保育にどう向き合っているのか、どんな保育を目指しているのか、そして園の保育の基本をどう理解しているのか、実際にはどのような活動をしているのかを改めて考えることを大きな目的としました。

今の保育のありようが、自己満足だけで終わってはいないか、自分の得意分野だけに気持ちが向かっていないかを検証するには、第三者の目が大切であることを感じています。そのために第三者評価が、大切な役割を果たしてくれたことを実感しています。

日常の中で、当たり前に行っていることを高く評価していただいたことが、保育士の自信やモチベーションの向上につながったり、不足している部分が、具体的にどういうことであるかを明確にできたことは、さらなる保育の質の向上につなげていきたいと思っています。

白百合愛児園 園長吉岡善美